

令和4年度第1回小牧市高齢者健康生きがい推進支援事業検討委員会 議事録

日 時	令和4年10月11日(火) 10時00分～10時50分
場 所	小牧市役所東庁舎 1階 1-1会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>廣畑 英治 公益社団法人小牧市シルバー人材センター 常務理事兼事務局長 高木 敏行 春日井公共職業安定所 統括職業指導官 田中 秀治 社会福祉法人小牧市社会福祉協議会 在宅福祉課長 山田 好広 社会福祉法人小牧市社会福祉協議会 ボランティアセンター所長 野中 宏朋 一般財団法人こまき市民文化財団 事務局次長</p> <p>【事務局】</p> <p>永井 政栄 健康生きがい支え合い推進部 健康生きがい推進課長 岩下 貴洋 健康生きがい支え合い推進部 健康生きがい推進課健康政策係長 前川 桂佑 健康生きがい支え合い推進部 健康生きがい推進課健康政策係主事</p> <p>【欠席者】</p> <p>関 哲雄</p>
傍聴者	0名
配付資料	(資料1) 高齢者がいきいきと輝くまちづくり事業～上半期実績及び下半期事業計画～
<p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 令和4年度 上半期実施事業報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料1(1～5ページ)を用いて事務局より説明。 <p>廣畑委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局からの説明にあったように、総合相談窓口について、PRがいます。 ウィズコロナということで、あと半期ありますので、チラシなり広報なり、いろいろな啓発、宣伝活動をしていただきたいと思いますし、私どももシルバー人材センターの会報等にも入れておりますので、引き続き実施したいと考えています。 体験会、説明会について、愛知県労働局と再就職支援セミナーを開催したということでしたが、こうした機会に、シルバー人材センターとして出店するなど、私どもも参加したいと思います。 就職ということで、シルバーの会員としての就業とは少し違いますが、実際に就職されて、シルバー人材センターで空いている時間を会員として働かれたり、ダブルワークの方もみえますので、そういったご案内もできるかと思っています。 はじめてのスマホ教室については、シルバー人材センターとして、初めて開催しました。広報等で周知し、シルバー人材センターの会員ではない方がもう少し来るかと思っていましたが、定員の半分程度しか応募がなく、結局、会員の方に来ていただくことになりました。更に周知し、今年度、もしくは来年度に開催したいと考えております。 	

高木委員)

- ・ 総合窓口で直接携わっている者として、来所者がなかなか伸びないというのは非常に苦に感じているところではあります。市民の方々がどういうものを求めているのか、何かの機会に把握し、それを総合相談窓口の運営に活かせると相談者数が増えるかと思います。
- ・ PRについては、具体例がもう少しチラシ等に記載するなど、分かりやすい内容のものがあるといいと思います。シルバー人材センターやハローワーク等の名称だけだと、何をしてくれるのかわからない方もいるので、分かりやすいPRが効果的と感じました。
- ・ どのようなものに関心を持っていただけるかということについて、ターゲット層がずれる可能性があります。年金のお話をされると興味を引きやすいと思っております。
- ・ 資料4ページの総合相談窓口の8月末までの相談件数で、ハローワークの分が加算されていないように思いますが、いかがでしょうか。

事務局)

- ・ 改めて確認しますが、社会福祉協議会など、委託先からの報告をもとに資料を作成しております。

高木委員)

- ・ ハローワークとしての相談件数は、6件でした。

野中委員)

- ・ 高齢者にとって、コロナに対する意識は、私たちが思っている以上に強い嫌悪感があるとの印象をもっています。
- ・ 私どもが管理しております施設利用について、コロナと共存し、社会経済活動が再開されたとはいえ、高齢者の戻りが芳しくない状況であり、総合相談窓口への来所も同様の状況ではないかと考えます。
- ・ 比較的若い方については、ボランティア活動、市民講座などの活動も積極的にされているようです。
- ・ 高齢の方は、ご自身の事情だけでなく、家族に止められたとか、グループ自体の活動を停止・解散されたり、私たちの目にしないところで、影響が大きい状況が続いているという印象を持っているところです。

山田委員)

- ・ 資料1(P5)ア 退職後の生きがいづくりセミナーについて、令和3年度は電話や飛び込みで市内の会社や企業にお願いしてきましたが、なかなか成果がありませんでした。
- ・ 今年度は商工会議所とも協議する中で、調整をし開催したところですが、結果的に感染者が急増していた時期であり、また、当日は大雨で名鉄電車も止まるような状況もあり、参加者はおりませんでした。12月に、改めて、セミナーを開催するので、その際は多くの方に来ていただくよう周知・啓発をしていきたいと思っております。

- ・ 小牧市では、13小学校区で、地域協議会が立ち上がっており、大城地区、篠岡地区、小牧原地区、本庄地区、味岡地区で「おたすけ隊」が実施されています。
- ・ シルバー人材センターの仕事よりも簡単な電球交換や草取りだとか、そのようなことを地域の人同士で助け合う取り組みであり、生きがいつくりにもつながる活動を考えます。
- ・ 各地域協議会において、チラシが作成されておりますので、こうしたチラシをワクティブこまきなどに設置し、周知啓発していくと良いと思います。

田中委員長)

- ・ それぞれの機関でお話があったと思いますが、主にどのような相談が多かったとか、相談内容の傾向などはいかがでしょう。

事務局)

- ・ コロナ禍ということもあり、先ほど、ハローワークの高木委員からご発言もありましたように、就労へのニーズが多いと感じております。
- ・ 広報等で周知すると、それを見られた方がハローワークとシルバー人材センターのブースを目的に来所されます。その方に対し、地域活動やボランティア活動など、幅広い案内をどこまでできるかが今後の課題であると考えているところです。

田中委員長)

- ・ 総合相談窓口には、いろいろなアイテムがあっという間かと思えますし、働きたいということは、この時代大いにありがたいと思えます。

廣畑委員)

- ・ シルバー人材センターで働きたい、就業したい方については、毎月2回、説明会を事務所でやっております。説明会は月に2回あり、大体5名程度、チラシを出すと一緒に増え、10人から20人位の参加があります。
- ・ 現状、ワクティブこまきに行かず、直接説明会に来られる方、あるいは電話の問合せが多い印象です。広報はシルバー人材センターの説明会について、年に3回出しており、チラシも出していますが、やはり事務所に直接来られてしまう。可能なら先ほどお話ししたように、もう少しPR活動をして、最初の窓口として、総合相談窓口を使えるようになるとういと考えているところです。

田中委員長)

- ・ やはりPRという部分がキーかと思えます。
- ・ 先ほど、高木委員がおっしゃられた市民が何を求めているかというニーズについて、手応えを感じるような相談はありますでしょうか。

高木委員)

- ・ 直接、就労関係で、この場へ来られる方、シルバー人材センターの窓口でお話されている中で、ハローワークに誘導していただいたりすることで、今年度はやっております。

事務局)

- ・ 廣畑委員から、愛知県労働局とのセミナーにおいて、シルバー人材センターとしてもブースの出展ができればというご意見を頂戴しました。

- ・ 後ほど、ご説明させていただきますが、今年度につきましては、もう一回、中高年齢者再就職支援セミナーと高年齢者就職相談会を開催する予定ですが、そちらの調整については既に終わっている状況です。
- ・ 愛知県からは、モデル事業は今年度で終了するところですが、来年度以降についても、小牧市において、継続する方向でお話をいただいております。
- ・ 今後、次年度の開催に向けて、実施会場も含めて、検討していきたいと考えておりますので、その中でシルバー人材センターのブースを設けることができないかという調整をぜひともさせていただきたいと思っております。また、その際にはご相談させていただきます。
- ・ 高木委員からいただきましたPRについては、事務局としましても、窓口の開設日に合わせてイベントを行ったり、集客効果のある事業を実施していけると、お立ち寄りいただける方も増え、また、そこから口コミで広がっていくという効果も見込めるのではないかと考えているところであり、今後、実施に向けて、検討していきたいと思っております。
- ・ また、年金というテーマをいただきましたが、労働局の相談会も同様の手法をとっており、年金の説明を聞きに来た方にブースにもお立ち寄りいただくという仕組みを実践されております。こうした手法も参考に、総合相談窓口でも実施したいと考えております。
- ・ 野中委員からいただきましたコロナ禍における影響は今だ残っている状況であることは感じるころがありますが、私どものPRも不十分な部分がありますので、周知計画の見直しをしていきたいと考えております。
- ・ 山田委員から情報提供いただきました地域協議会の「お助け隊活動」については、地域の中での課題を踏まえ、その解決に向けて事業化された課題解決型の事業になります。
- ・ こうした事業の周知を含め、本モデル事業に関わる機関が連携できる事項を検討していきたいと考えているところです。

(2) 令和4年度 下半期実施事業について

- ・ 資料1（6～9ページ）を用いて事務局より説明。

山田委員)

- ・ 新図書館は、かなり利用者が増えている状況です。
- ・ 先日、ラピオに行ったら、駐車場も満員で、図書館に行く方は多い状況でしたが、ワクティブに来所される方は少ない状況です。
- ・ 図書館に平日来られる方というのは、高齢者が多い状況です。
- ・ 以前、図書館にディスプレイを設置し、ワクティブこまきに誘導するように努めるとの発言があったと思いますが、その後いかがでしょうか。

事務局)

- ・ 新図書館の1階には、SDGsのPRも兼ねて、ワクティブこまきに関するブースを設置されております。

山田委員)

- ・ デジタルサイネージを活用し、ワクティブこまきの催し物やラピオ2階の総合相談窓口の周知をすることで、図書館の来場者をワクティブに誘導するなど、人の流れが期待できるのではないかと感じております。

野中委員)

- ・ スマホ教室が好評だというお話ですが、インストラクターはどういった方がやられたのですか。

事務局)

- ・ 昨年度につきましては、携帯電話の通信会社と協議する中で実施したところです。
- ・ また、今年度、ボランティアセンターにおいては、市民活動ネットワークと連携する中で、実施されたと聞いております。
- ・ 今年度につきましては、どのようなテーマを設定していくかを含め、現在、実務者会議で検討をしているところです。

野中委員)

- ・ こまき市民文化財団の中で友の会制度がありまして、チケットの割引や先行販売について、対応しています。
- ・ 電子申請で受付を開始した当初は高齢者の方もチケットの購入等に苦手の方も一定数見受けられ、ご家族に協力いただいているようでしたが、今になるとそれほど抵抗なく触れる方が増えたという印象があります。
- ・ こまき市民文化財団の事業だと、市の広報に掲載してもらうことが多く、紙面の都合上、文字情報だけになってしまっていて、画像等を載せられないので、周知方法としては、LINEを使っています。
- ・ 現在では、高齢の方がQRコードにより、エントリーしてくださるので、スマホ教室をされる中で、そのようなところまで網羅できると、先ほどお話しされたように初心者というよりも、その一個上のステージの方が取り組まれるということであれば有効だと感じたところです。イベント開催時に「LINEを見ました」ということでお申し込みいただけるので、これからの時代、もう既に有効な手段になっていると思っております。

田中委員長)

- ・ 去年はスマホ決済についてのスマホ教室と伺いましたが、今年はテーマを決めてあるのでしょうか。

事務局)

- ・ 昨年度は新たな生活様式を踏まえ、スマホ決済をテーマに実施しました。
- ・ 今年度につきましては、現在、実務者会議で協議を進めているところです。

田中委員長)

- ・ いろいろなことができることで、可能性は広がりますからね。
- ・ ちなみにボランティアセンターでやるスマホ教室のテーマはいかがでしょうか。

山田委員)

- ・ LINEをテーマに15名程度で既に3回実施しています。
- ・ 今年度も同様に実施します。スマホ教室の中でトラブル（QRコードの機能制限により使用不可、充電切れ等）があったので、事前準備の周知の必要性も感じるところです。小牧市公式LINEもあるので、活用できるようにしたいと思います。

事務局)

- ・ PRという部分では市公式LINEは非常に有効かと思っています。
- ・ 本市では、コロナワクチンの接種予約をLINEを活用することとし、PRしてきたこともあり、現在、6万5千人が友達登録をされている状況です。
- ・ その前の段階として、まだLINE等のスマホの機能を十分に使えない方もいることから、スマホ教室を実施することによって、総合相談窓口の周知にもつなげたいとの考えもあり、昨年度からスマホ教室を開催するようになったところです。

田中委員長)

- ・ そのほかにご質問はよろしいでしょうか。

廣畑委員)

- ・ 11月22日にハローワーク主催でアクティブシニア就職フェアをされるということで、私どももブースを設ける予定ですが、実績に加味してもよろしいでしょうか。

事務局)

- ・ 本モデル事業については、関係機関の独自の取組みについても実績としていきたいと考えております。
- ・ また、PRできるものは、各機関が可能な手段を使ってPRしていけるといいと考えておりますので、市としてもPRをさせていただくことが可能でしたら、情報をいただければと思います。

高木委員)

- ・ 資料1（P7）マッチング事業のところですか。
- ・ 人材を求める団体や企業と生きがいを求める個人とのマッチングを図るということで、特に職業柄、就労ばかり考えてしまいますが、就労に限らず多方面を視野に入れるイメージでよろしいでしょうか。

事務局)

- ・ おっしゃるとおりです。
- ・ 就労に関しては、様々なニーズに対応するため、スポット的な就労であったり、定職としての就労であったり、シルバー人材センターやハローワークなどにおいて、ニーズに沿った案内ができるような体制を目指したいと考えております。
- ・ また、地域活動やボランティアにつきましても、これまでの経験やノウハウを活かし、地域で活動するなど、様々なニーズがあると思います。
- ・ 市としましては、いかにニーズを把握したうえで、関係機関や企業とつないでいけるかが本事業を通じた総合窓口の課題であると考えております。
- ・ その仕組みづくりにつきましても、先ほど、高木委員からハローワークとシルバー人材センターが相談窓口で連携しているとの話がありましたが、そのような連携の

あり方も含めて、窓口を運営する中で、ルール化やノウハウを蓄積していきたいと考えております。

- ・ また、企業や団体からの要望であったり、こういった方と一緒にやりたいというような情報をもう少し得られる体制を構築していきたいと考えております。

廣畑委員)

- ・ 総合相談窓口は相談員をシルバー人材センターの会員にやってもらっていますが、業務として、当然一般の方からの相談に対しての対応や入会のご案内だけでなく、企業からの受注関係もお願いしているところです。
- ・ ただ、なかなかPRもできていないので、企業や団体の方からの求職を募ることも難しく、進捗がありません。

事務局)

- ・ 総合窓口では、おっしゃるとおり、そうした企業からの相談も受け付けられればと思っております。
- ・ ただ、企業側の相談を考えると、企業の担当者が来所することは難しいと思いますので、冒頭、説明させていただきましたように、専用の電話が開設しておりますので、電話連絡をもらうような体制をぜひ構築していけるといいと考えております。

田中委員長)

- ・ また、企業側へのPRも同時に考えていくということですね。

事務局)

- ・ なかなか実際にできていないというのが実情ですので、今後に向けては商工会議所等と相談をし、進めていきたいと考えているところです。

(3) その他

- ・ 事務局より次年度以降の事業展開について、説明。

3. 閉会